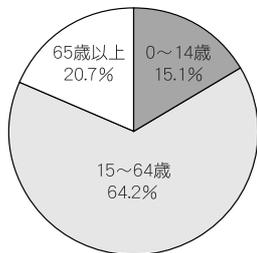


# 誕生といまのすがた



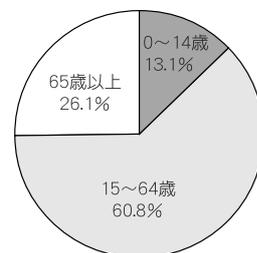
## 幕別町

人口：25,682人  
世帯数：9,968世帯  
面積：340.46km<sup>2</sup>



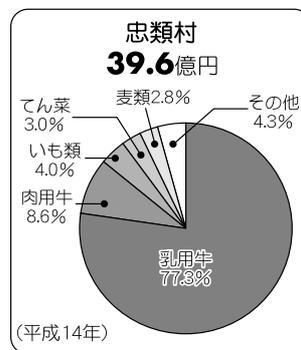
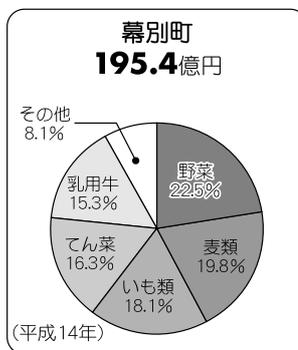
## 忠類村

人口：1,865人  
世帯数：735世帯  
面積：137.54km<sup>2</sup>



(平成16年12月末日現在住民基本台帳人口)

### 農業産出額



ついで

- 合併の必要性……………4頁
- これまでとこれから……………5頁
- 財政シミュレーション……………6頁～7頁
- 合併による効果……………8頁～9頁

### 新しいまちのすがた

- 基本的な項目……………10頁
- 議会議員・農業委員会委員・特別職……………11頁
- 行政区・町名……………12頁
- 地方税……………13頁
- 国民健康保険税……………14頁
- 上下水道……………15頁
- 使用料・手数料……………16頁
- 保健・医療……………17頁～19頁
- 福祉……………20頁～24頁
- 教育……………25頁
- 産業……………26頁
- 慣行・広報・消防……………27頁

## 忠類村

忠類村の開拓は、明治27年、群馬県人岡田新三郎が丸山南麓に単身で入植し、始まりました。同30年1月十勝支庁の管轄と同時に、広尾郡を管轄する当縁村役場が大樹市街に置かれました。

同39年4月に2級町村制施行で当縁村が廃止され、大字茂寄村、歴舟村、大樹村を併合して茂寄村と改称し、現在の広尾町に村役場を設置しました。

大正15年に広尾村と改称し、昭和3年10月広尾村から分村して大樹村が誕生。同24年8月に大樹村から分村し、現在の忠類村になりました。

## 幕別町



## 幕別町

幕別町は、明治13年、十勝外4郡戸長役場が大津村に設けられ、幕別地方はその管轄となったことで開拓が始まりました。同15年宮城県人細谷十太夫が止若に居住したのが和人入地の始まりです。

その後、富山、徳島、岡山の各県から団体移住をする者が多くなり、同30年6月には大津村戸長役場の所管を離れ、幕別外六か村戸長役場が猿別に設けられました。この年が幕別町の開基1年目で、同38年の鉄道開通に伴い町の中心が現在の幕別市街に移動しました。

昭和21年町制が施行され、翌年池田町より新川地区を編入、同23年に勢雄、弘和の一部を更別村に分轄し、現在の行政面積になりました。

## 忠類村

観光客入込客数(平成14年度)



幕別町**38.5**万人



忠類村**4.4**万人

商業年間販売額(平成14年)



幕別町**334**億円



忠類村**18**億円

# 合併の必要性

## 1. 地方分権と協働のまちづくりへの対応

地方分権の推進により、これまで以上に地方自治体の自己決定、自己責任能力が問われており、その能力の違いが、行政サービスの違いや地域活力などに直接的に影響することが予想されます。このため、住民の多様なニーズや地域の特性に対応して自らの責任と判断で決定し、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現していくために、行政能力の向上とともに、住民と行政の協働によるまちづくりの推進が求められています。

## 2. 少子高齢化への対応

少子化による年少人口や生産年齢人口の減少は、経済にマイナスの影響を与え、高齢化の進行は、医療、福祉等の社会保障関連経費の増大につながり、町村の財政事情は一層厳しく、行政サービス水準の維持が難しくなることが予想されます。このため、少子高齢化に対応した保健・医療・福祉などのサービスが受けられる体制づくりなど、安心して子育てができる環境づくりや高齢者等が健やかに暮らせる地域づくりを進めることが必要となっています。

## 3. 厳しい財政運営への対応

国、地方の財政は、長引く景気の低迷による税収の落ち込みなどにより、極めて厳しい状況にあり、また、町村の財政は、近年の地方交付税や国等の補助金の急激な削減により、厳しい財政運営を余儀なくされ、この傾向は、今後も続くことが予想されています。このため、計画的な行財政改革の徹底と、適切な事業選択や受益と負担の適正化による財源の確保など、より一層効率的な行財政運営が求められています。

## 4. 競争と連携への対応

地域間競争、産地間競争など、地域が競い合う社会に変化してきています。このため、こうした競争に勝ち残り、個性豊かなまちづくりを実現していくためには、広域的な観点に立ち、これまでにつちかったノウハウや資源の共有化、地域ブランドの確立等、多面的な連携を図っていくことが必要となっています。

# これまでとこれから

